

DCダイワ・ターゲットイヤー2040

<3728>

追加型投信／内外／資産複合

日経新聞掲載名：DC2040

第17期 2024年12月18日決算

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、内外の株式、債券、リート（REIT）および短期金融資産に投資し、中長期的に安定した信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第17期末	基準価額	25,612円
	純資産総額	492百万円
第17期	騰落率	13.6%
	分配金	0円

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書（全体版）」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書（全体版）」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

◇TKU0372820241218◇

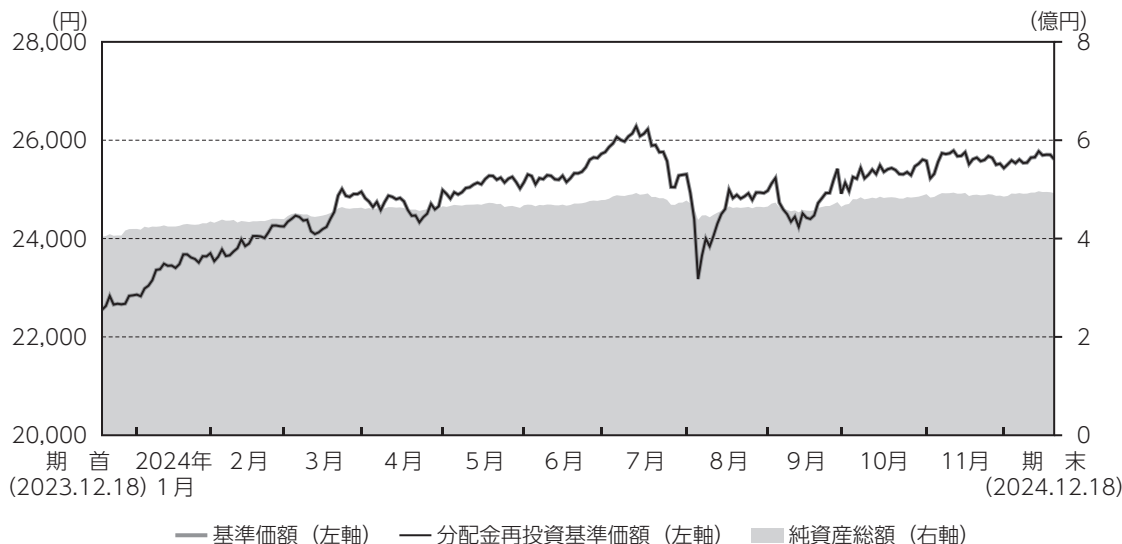
「運用報告書（全体版）」の閲覧・ダウンロード方法

上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書（全体版）を選択



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：22,551円

期末：25,612円（分配金0円）

騰落率：13.6%（分配金込み）

組入ファンドの当作成期中の騰落率と期末の組入比率

組入ファンド	騰落率	比率
トピックス・インデックス・マザーファンド	20.2%	31.1%
ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド	△0.5%	21.9%
外国債券インデックスマザーファンド	8.9%	17.1%
外国株式インデックスマザーファンド	34.9%	16.2%
ダイワJ-REITマザーファンド	△5.4%	6.8%
ダイワ・グローバルREITインデックス・マザーファンド	17.8%	6.8%

基準価額の変動要因

内外の株式、債券、リート（REIT）に投資した結果、国内および海外株式市況が上昇したことなどがプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2023.12.19~2024.12.18)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	98円	0.396%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は24,806円です。
(投 信 会 社)	(45)	(0.181)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(45)	(0.181)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(8)	(0.033)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	1	0.002	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(0)	(0.001)	
(新株予約権証券)	(0)	(0.000)	
(先物・オプション)	(0)	(0.001)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投 資 証 券)	(0)	(0.000)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(0)	(0.001)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投 資 証 券)	(0)	(0.000)	
そ の 他 費 用	4	0.016	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(2)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.002)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	103	0.416	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

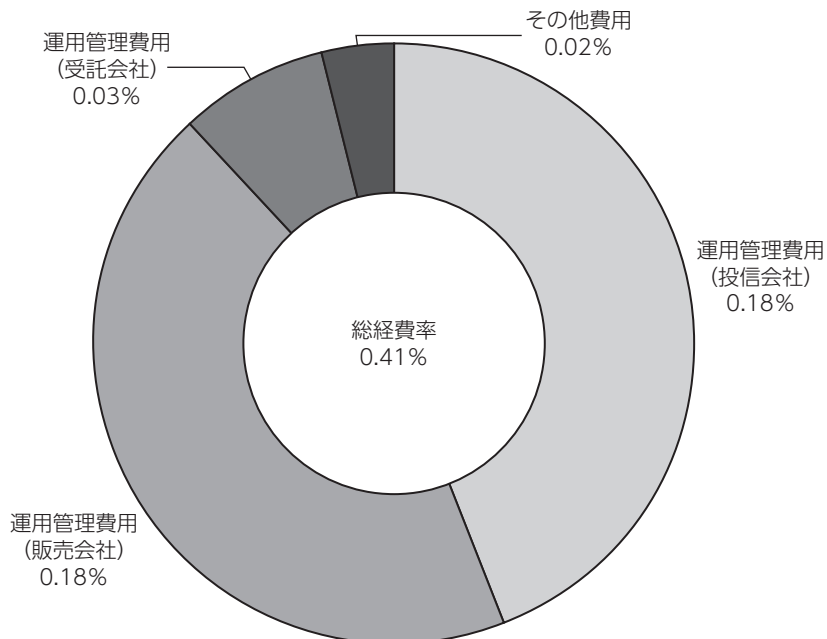
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.41%です。

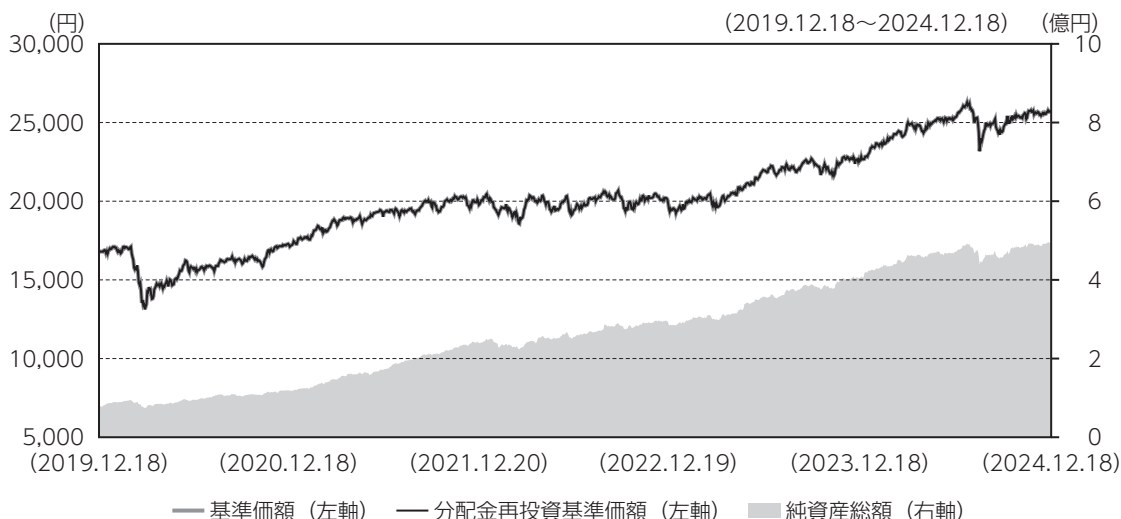


(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、2019年12月18日の基準価額をもとに指数化したものです。

	2019年12月18日 期初	2020年12月18日 決算日	2021年12月20日 決算日	2022年12月19日 決算日	2023年12月18日 決算日	2024年12月18日 決算日
基準価額 (円)	16,805	17,292	19,765	19,868	22,551	25,612
分配金 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	2.9	14.3	0.5	13.5	13.6
純資産総額 (百万円)	77	119	238	290	403	492

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

投資環境について

(2023.12.19~2024.12.18)

国内株式市況

国内株式市況は、史上最高値を更新後、乱高下を経てレンジ相場となりました。

国内株式市況は、当作成期首より、円高進行などが懸念されて狭いレンジで推移しました。しかし2024年1月以降は、新NISA（少額投資非課税制度）を通じた資金流入や海外投資家による日本株投資の積極化、円安進行などが好感され、大幅に上昇しました。3月下旬以降は上昇が一服し、景況感の悪化や市場予想を下回る新年度の企業業績見通しの発表、国内長期金利の上昇などが上値を抑え、高値圏での保ち合いとなりました。6月下旬以降は、海外のAI（人工知能）関連企業の株価急騰や円安進行などが好感されて上昇し、史上最高値を更新しました。しかし7月中旬に入り、米国の対中輸出規制強化への懸念などから半導体関連株主導で下落すると、7月末には日銀の利上げ決定と植田日銀総裁のタカ派発言で金融政策の不透明感がにわかに強まったことに加え、8月初旬に発表された米国の雇用統計が市場予想よりも弱い内容であったことから急速に円高が進行し、株価は数日のうちに当作成期首を下回る水準まで急落しました。歴史的な急落を演じた後は、内田日銀副総裁のハト派発言や米国の経済指標の改善などを受けて株価は急反発し、9月初旬には急落直前の水準をほぼ回復しました。その後は、9月中旬にかけて円高が進行したことや10月下旬の衆議院議員選挙で与党が過半数割れとなったこと、11月初旬の米国大統領選挙でトランプ元大統領が勝利し関税引き上げを巡る不透明感が強まったことなどから、一時的に下落する局面はありましたが、高水準の自社株買いなどが下値を支え、総じてレンジ内での推移となり当作成期末を迎えました。

海外株式市況

海外株式市況は上昇しました。

海外株式市況は、当作成期首より、欧米のインフレ率が予想以上に鈍化し金利が低下したことやFRB（米国連邦準備制度理事会）議長の発言を受けて利下げ観測が高まったことなどが好感され、上昇しました。2024年1月に入ると、台湾の半導体企業が強気見通しを出したことが好感され、株価は続伸しました。4月以降は、米国の利下げ期待が後退したことや中東情勢への懸念が高まったことなどの影響により株価は下落しましたが、米国の半導体関連株の買戻しや中東情勢への懸念の後退を主因に、下げ幅を縮小しました。6月に入ると、欧米の経済指標の下振れにより利下げ期待が高まったため、株価は上昇しました。7月後半は、バイデン氏の米国大統領選挙撤退論がささやかれ政治不安が高まったことや、米国による対中半導体規制の強化報道に加え、好決算にもかかわらず株価急落となった企業も散見され、下落しました。8月初旬は、米国の雇用統計の悪化などによる景気減速懸念の強まりで急落しましたが、その後の良好な景気指標を受けて米国景気への過度な懸念が和らぐと、8月半ばにかけて株価は急反発しました。9月上旬は、米国のISM製造業景況感指数などの下振れを受けた景気減速懸念の再燃により下落しましたが、米国半導体大手エヌビディアのCEO（最高経営責任者）が次世代AI

(人工知能)半導体需要に対して強気の見通しを示すと、上昇しました。11月に入ると、米国大統領選挙でトランプ氏が当選したことで、経済政策への期待から米国株式を中心に上昇しました。

■国内リート市況

国内リート市況は下落しました。

国内リート市況は、当作成期首から2024年1月前半にかけては、日銀が金融政策を据え置いたことなどにより上昇しました。1月後半から3月前半にかけては、米国を中心とした商業用不動産への懸念、日銀の金融政策正常化への警戒感などの複合的な要因から下落しました。3月後半から5月上旬にかけては、金融政策をめぐる不透明感の後退や、複数の自己投資口取得が発表されたことなどから上昇しました。その後は5月末にかけて、日銀の国債買入れ減額の影響などを受けて下落しました。6月から7月にかけては、日銀による早期の利上げ観測が台頭したことなどが上値を抑えた一方で、相対的に安定した高い利回りや資産価値から見た割安感が下支えとなり、横ばい圏の推移が続きました。8月に入ると、米国での景気後退懸念の台頭によるリスク資産の下落や、円高進行による日本株安に連れて国内リート市況も大きく下落しましたが、その後、米国の景気後退懸念が和らいだことや国内長期金利が1%を下回る水準で推移したことなどから、上昇しました。10月から当作成期末にかけては、米国で景気悪化懸念が後退し日米長期金利が上昇したことや、衆議院議員選挙の結果を受けた国内金融政策の不透明感の高まりから、国内リート市況は下落しました。

■海外リート市況

海外リート市況は上昇しました。

海外リート市況は、当作成期首より、F R B (米国連邦準備制度理事会)理事による利下げへの言及やF O M C (米国連邦公開市場委員会)での金融引き締めからの転換の示唆などを受けて米国長期金利が急低下したことを好感し、上昇しました。2024年3月にかけては、長期金利の上昇傾向が重しとなったものの、おおむね堅調な2024年通年の業績見通しの発表などが相場の支援材料となり、底堅く推移しました。6月にかけては、米国の金融政策への思惑に左右されて上下しましたが、おおむねレンジでの推移となりました。8月中旬以降は、長期金利が低下する中で海外リート市況は米国を中心に大きく上昇しました。10月中旬以降は、米国大統領選挙を前に様子見ムードが広がったことや長期金利の上昇が嫌気されて若干調整しましたが、大統領選挙の結果を受けて再度上昇し、当作成期末を迎えました。

■国内短期債券市況

国内短期債券市場では、短期金利は上昇(債券価格は下落)しました。

国内短期金利は、当作成期首より、米国で利上げサイクルの終了が意識されたことにより、低下(債券価格は上昇)基調で推移しました。2024年1月から5月にかけては、過度な利下げ織り込みが後退したことで米国金利が上昇したことや、日銀によるマイナス金利政策解除などを受けて上昇しました。6月から7月にかけては、米国金利の低下が国内短期金利の低下要因となった一方、日銀による政策金

利の引き上げが上昇要因となり、おおむね横ばいとなりました。8月から9月にかけては、米国経済指標の軟化や日銀の利上げ姿勢を受けて景気減速懸念が台頭し、国内短期金利は低下しました。その後は当作成期末にかけて、堅調な米国経済指標などを受けて米国金利が上昇し、国内短期金利も上昇しました。

■海外債券市況

主要国の国債金利はおおむね低下しました。

主要国の国債金利は、当作成期首より、経済指標が軟調となったことを受けて利上げサイクルの終了が意識されたことにより、低下しました。2024年1月から4月にかけては、市場予想を上回る経済指標などを受けて過度な利下げ織り込みが後退したことで、金利は上昇しました。5月から7月にかけては、米国経済指標が軟調となったことで利下げ期待が高まり、金利は低下しました。8月から9月にかけては、米国経済指標の軟化や日銀の利上げ姿勢を受けて景気減速懸念が台頭し、金利は低下しました。当作成期末にかけては、堅調な米国経済指標などを受けて米国金利を中心に上昇しました。

■為替相場

為替相場はおおむね円安となりました。

為替相場は、当作成期首より、日銀による政策修正や主要国の金利が低下したことなどを受け、円高に推移しました。2024年1月から6月にかけては、日銀によるマイナス金利政策解除を背景に円高となる局面もありましたが、主要国の金利が堅調な経済指標により上昇したことなどを受け、円安基調で推移しました。7月から9月にかけては、主要国の金利が低下したことや日銀の利上げ姿勢を受け、円高に推移しました。当作成期末にかけて、主要国の金利が上昇したことなどが意識され、円安に推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

マザーファンドの受益証券への投資を通じて、2040年に近づくに従って株式等の組み入れを漸減させ、債券の組み入れを漸増させることなどにより、長期的にリスクを減少させていく運用を行ってまいります。

■トピックス・インデックス・マザーファンド

当ファンドの運用の基本方針に基づき、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行ってまいります。

■外国株式インデックスマザーファンド

当ファンドの運用方針に基づき、ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざして運用を行ってまいります。

■ダイワJ-REITマザーファンド

当ファンドの運用の基本方針に基づき、ベンチマークの動きに連動した投資成果をめざした運用を継続してまいります。

■ダイワ・グローバルREITインデックスマザーファンド

海外の金融商品取引所上場および店頭登録のリートに投資し、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行います。また、運用の効率化を図るため、ETF（上場投資信託証券）ならびに不動産投信指数先物取引を利用することがあります。

■ダイワ日本債券インデックスマザーファンド（BPI）

ベンチマークとの高い連動性を維持するように運用を行ってまいります。残存年限別構成や債券種別構成、金利や信用スプレッド（国債以外の債券における国債との利回り格差）への感応度を厳密に管理するとともに、ファンドの資金流入出や毎月末に行われるベンチマークのユニバース変更に対しては、売買コストなどに十分配慮しつつ、きめ細かなポートフォリオのリバランスを行います。なお、当ファンドは現在、ベンチマークに含まれるすべての債券種別を組入対象としておりますが、流動性の問題などを勘案し、相対的に格付けの低い銘柄等への投資は見送ることもあります。

■ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド

今後もベンチマークとの高い連動性を維持するように運用を行います。残存年限別構成やデュレーションなどを管理するとともに、ファンドの資金流入出や毎月末に行われるベンチマークのユニバース変更に対しては、売買コストに配慮しつつ、ポートフォリオのリバランスを行います。なお、ベンチマークに含まれる債券のうち、格付けの低い銘柄については、信用リスク管理や流動性確保の観点から投資を見送ることもあります。

■外国債券インデックスマザーファンド

ファンドの通貨の比率をベンチマークに極力近づけ、かつ、ファンドとベンチマークの金利変動に対する価格感応度を近づけることにより、ベンチマークに連動する投資成果をめざします。

ポートフォリオについて

(2023.12.19~2024.12.18)

■当ファンド

当ファンドの特色に基づき、国内株式・外国株式・国内リート・外国リート・国内債券・外国債券の各マザーファンドの受益証券へ基本配分比率を参考に投資を行いました。

当作成期における基本配分比率は、純資産総額に対してそれぞれ以下の通りとし、比率の見直しを2024年3月に行いました。

	当作成期首~2024年3月	2024年3月~当作成期末
トピックス・インデックス・マザーファンドの受益証券	32%	31%
外国株式インデックスマザーファンドの受益証券	17%	16%
ダイワJ-REITマザーファンドの受益証券	7%	7%
ダイワ・グローバルREITインデックス・マザーファンドの受益証券	7%	7%
ダイワ日本債券インデックスマザーファンド（BPI）の受益証券	0%	0%
ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンドの受益証券	21%	22%
外国債券インデックスマザーファンドの受益証券	16%	17%

■トピックス・インデックス・マザーファンド

株式を中心に組み入れ、一部TOPIX先物取引も利用し、株式組入比率（株式先物を含む。）につきましては、当作成期を通じておおむね100%程度を維持しました。株式ポートフォリオは、最適化の手法（株価変動を数理的にいくつかの要因に分解し、それに基づいて、ポートフォリオがベンチマークと同じように変動するよう、銘柄、株数を決定するシステムの手法）を用いて構築しています。当作成期中、資金変動への対応、新規上場等のベンチマークの構成の変化への対応のため、随時、株式の売買を行いました。

■外国株式インデックスマザーファンド

外国株式を中心に組み入れ、S & P 500先物取引等の株価指数先物も一部利用し、株式組入比率（投資信託証券、株価指数先物を含む。）につきましては、当作成期を通じておおむね100%程度の水準を維持しました。外国株式等のポートフォリオ構築にはリスクモデルを利用し、ファンドの資産規模や資金動向、売買コストの抑制等を勘案しながら、基準価額とベンチマークとの連動性を維持・向上させるよう運用を行いました。

■ダイワJ-REITマザーファンド

ベンチマークの動きを反映した投資成果をめざして、おおむね時価総額構成比に基づいたポートフォリオを構築しました。リート実質組入比率（不動産投信指数先物を含む。）については、当作成期を通じて99~100%程度としました。

■ダイワ・グローバルREITインデックスマザーファンド

海外のリートに投資し、ポートフォリオ構築にあたっては、原則として浮動株修正後の時価総額ウェイトで組成し、ベンチマークとの連動性を維持するような運用を行いました。また、運用の効率化を

図るため、ETF（上場投資信託証券）および不動産投信指数先物を組み入れました。

■ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド

当ファンドの基準価額の騰落率が、ベンチマークの騰落率に連動することをめざしたポートフォリオ構築を行いました。当作成期を通じて、公社債組入比率を高位に保つと同時に、ポートフォリオの残存年限構成やデュレーションなどをベンチマークに近づけることにより、連動性を維持しました。

■外国債券インデックスマザーファンド

外国の公社債に投資し、ファンドの通貨の比率をベンチマークに極力近づけ、かつ、ファンドとベンチマークの金利変動に対する価格感応度を近づけることにより、ベンチマークに連動する投資成果をめざしました。

* マザーファンドのベンチマークは以下の通りです。

組入ファンド	ベンチマーク
トピックス・インデックス・マザーファンド	TOPIX（配当込み）
外国株式インデックスマザーファンド	MSCIコクサイ指数（税引後配当込み、円ベース）
ダイワJ-REITマザーファンド	東証REIT指数（配当込み）
ダイワ・グローバルREITインデックス・マザーファンド	S&P先進国REIT指数（除く日本）（税引後配当込み、円ベース）
ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド	NOMURA-BPI総合短期指数
外国債券インデックスマザーファンド	FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、確定拠出型年金向けファンドであることを考慮し、収益分配を見送らせていただきました。なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2023年12月19日 ～2024年12月18日	
当期分配金（税込み）	（円）	—
対基準価額比率	（％）	—
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	—
翌期繰越分配可能額	（円）	15,612

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注4）投資信託の計理上、「翌期繰越分配可能額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはございません。

※なお、投資信託約款上の分配対象額は、上記分配可能額のうち経費控除後の配当等収益です。



今後の運用方針

■当ファンド

マザーファンドの受益証券への投資を通じて、2040年に近づくに従って株式等の組み入れを漸減させ、債券の組み入れを漸増させることなどにより、長期的にリスクを減少させていく運用を行ってまいります。

■トピックス・インデックス・マザーファンド

当ファンドの運用の基本方針に基づき、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行ってまいります。

■外国株式インデックスマザーファンド

当ファンドの運用方針に基づき、ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざして運用を行ってまいります。

■ダイワJ-REITマザーファンド

当ファンドの運用の基本方針に基づき、ベンチマークの動きに連動した投資成果をめざした運用を継続してまいります。

■ダイワ・グローバルREITインデックスマザーファンド

海外の金融商品取引所上場および店頭登録のリートに投資し、ベンチマークに連動する投資成果をめざして運用を行います。また、運用の効率化を図るため、ETF（上場投資信託証券）ならびに不動産投信指数先物取引を利用することがあります。

■ダイワ日本債券インデックスマザーファンド（BPI）

ベンチマークとの高い連動性を維持するように運用を行ってまいります。残存年限別構成や債券種別構成、金利や信用スプレッド（国債以外の債券における国債との利回り格差）への感応度を厳密に管理するとともに、ファンドの資金流入出や毎月末に行われるベンチマークのユニバース変更に対しては、売買コストなどに十分配慮しつつ、きめ細かなポートフォリオのリバランスを行います。なお、当ファンドは現在、ベンチマークに含まれるすべての債券種別を組入対象としておりますが、流動性の問題などを勘案し、相対的に格付けの低い銘柄等への投資は見送ることもあります。

■ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド

ベンチマークとの高い連動性を維持するように運用を行います。残存年限別構成やデュレーションなどを管理するとともに、ファンドの資金流入出や毎月末に行われるベンチマークのユニバース変更に対しては、売買コストに配慮しつつ、ポートフォリオのリバランスを行います。なお、ベンチマークに含まれる債券のうち、格付けの低い銘柄については、信用リスク管理や流動性確保の観点から投資を見送ることもあります。

■外国債券インデックスマザーファンド

ファンドの通貨の比率をベンチマークに極力近づけ、かつ、ファンドとベンチマークの金利変動に対する価格感応度を近づけることにより、ベンチマークに連動する投資成果をめざします。

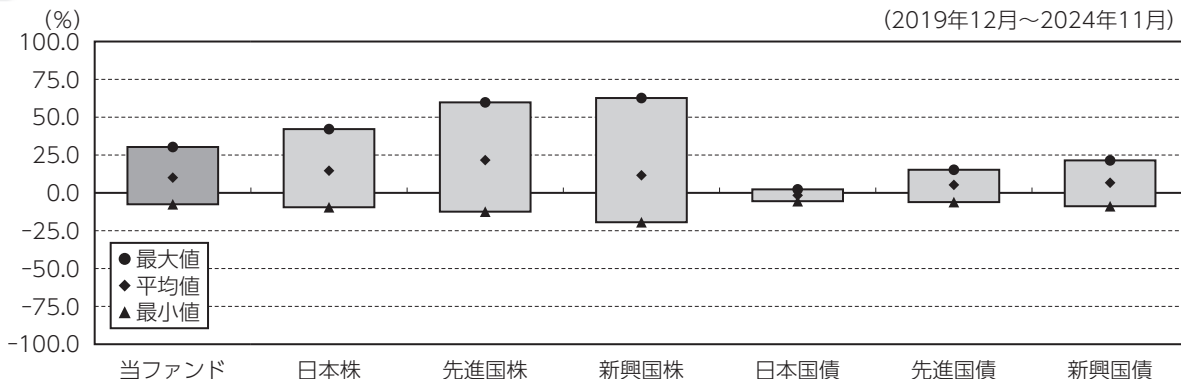


当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合													
信託期間	無期限（設定日：2008年2月28日）													
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。													
主要投資対象	ベビーファンド	下記の各マザーファンドの受益証券												
	トピックス・インデックス・マザーファンド	東京証券取引所上場株式（上場予定を含みます。）												
	外国株式インデックスマザーファンド	外国の株式（預託証券を含みます。）												
	ダイワJ-R E I Tマザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券												
	ダイワ・グローバルR E I Tインデックス・マザーファンド	海外の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）および店頭登録（登録予定を含みます。）の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券												
	ダイワ日本債券インデックスマザーファンド（B P I）	内外の公社債等（各種の債権や資産を担保・裏付けとして発行された証券を含みます。）												
	ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド	わが国の公社債等（各種の債権や資産を担保・裏付けとして発行された証券を含みます。）												
	外国債券インデックスマザーファンド	外国の公社債												
ベビーファンドの運用方法	<p>①主として、マザーファンドを通じて内外の株式、債券、リート（R E I T）に投資するとともに、短期金融資産に投資を行ない、中長期的に安定した信託財産の成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>②マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当初設定時の基本配分比率を参考にポートフォリオを構築し、2040年に近づくに従って株式等の組み入れを漸減させ、債券の組み入れを漸増させることなどにより、長期的にリスクを減少させていく運用を行ないます。</p> <p>当初設定時の基本配分比率</p> <table border="0"> <tr> <td>トピックス・インデックス・マザーファンドの受益証券</td> <td>信託財産の純資産総額の48%</td> </tr> <tr> <td>外国株式インデックスマザーファンドの受益証券</td> <td>信託財産の純資産総額の32%</td> </tr> <tr> <td>ダイワJ-R E I Tマザーファンドの受益証券</td> <td>信託財産の純資産総額の5%</td> </tr> <tr> <td>ダイワ・グローバルR E I Tインデックス・マザーファンドの受益証券</td> <td>信託財産の純資産総額の5%</td> </tr> <tr> <td>ダイワ日本債券インデックスマザーファンド（B P I）の受益証券</td> <td>信託財産の純資産総額の5%</td> </tr> <tr> <td>外国債券インデックスマザーファンドの受益証券</td> <td>信託財産の純資産総額の5%</td> </tr> </table> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p> <p>④2040年の決算日以降は、ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンドの受益証券のほか短期金融資産に投資し、リスクを抑えた運用をめざします。</p>		トピックス・インデックス・マザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の48%	外国株式インデックスマザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の32%	ダイワJ-R E I Tマザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の5%	ダイワ・グローバルR E I Tインデックス・マザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の5%	ダイワ日本債券インデックスマザーファンド（B P I）の受益証券	信託財産の純資産総額の5%	外国債券インデックスマザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の5%
トピックス・インデックス・マザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の48%													
外国株式インデックスマザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の32%													
ダイワJ-R E I Tマザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の5%													
ダイワ・グローバルR E I Tインデックス・マザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の5%													
ダイワ日本債券インデックスマザーファンド（B P I）の受益証券	信託財産の純資産総額の5%													
外国債券インデックスマザーファンドの受益証券	信託財産の純資産総額の5%													
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。													



代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国国債	新興国国債
最大値	30.3	42.1	59.8	62.7	2.3	15.3	21.5
平均値	10.1	14.6	21.6	11.6	△1.6	5.3	6.7
最小値	△7.5	△9.5	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△8.8

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………配当込みTOPIX

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●配当込みTOPIXの指数値および同指数にかかる標準または商標は、株式会社J.P.X総研または株式会社J.P.X総研の関連会社（以下「J.P.X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび同指数にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ.P.Xが有します。J.P.Xは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.（「MSCI」）が開発した指数です。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任を負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。（<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>）●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



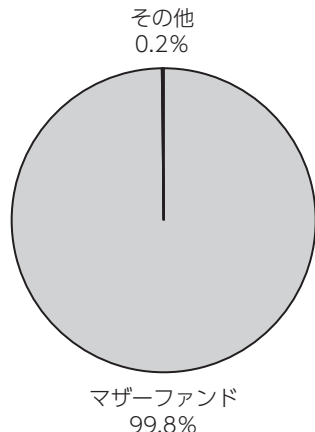
ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

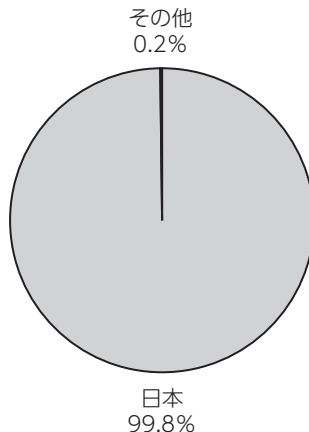
組入ファンド等

	比率
トピックス・インデックス・マザーファンド	31.1%
ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド	21.9
外国債券インデックスマザーファンド	17.1
外国株式インデックスマザーファンド	16.2
ダイワJ-R E I Tマザーファンド	6.8
ダイワ・グローバルR E I Tインデックス・マザーファンド	6.8
その他	0.2

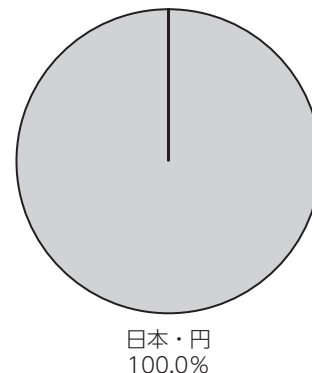
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 上記データは2024年12月18日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

純資産等

項目	当期末
	2024年12月18日
純資産総額	492,476,996円
受益権総口数	192,283,666口
1万口当り基準価額	25,612円

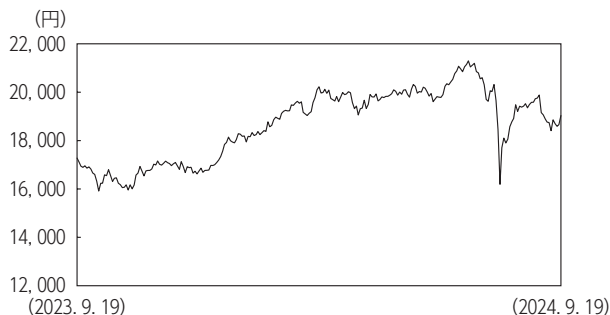
* 当期中における追加設定元本額は42,361,589円、同解約元本額は29,118,666円です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

組入上位ファンドの概要

◆トピックス・インデックス・マザーファンド（作成対象期間 2023年9月20日～2024年9月19日）

■基準価額の推移



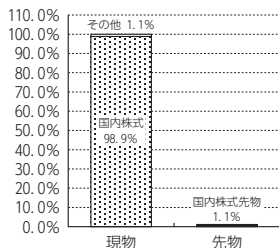
■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料	1円
(株式)	(0)
(新株予約権証券)	(0)
(先物・オプション)	(0)
有価証券取引税	—
その他費用	—
合計	1

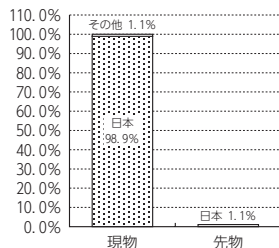
■組入上位銘柄

銘柄名	比率
トヨタ自動車	3.7%
ソニーグループ	2.5
日立	2.4
三菱UFJフィナンシャルG	2.3
リクルートホールディングス	1.8
キーエンス	1.8
三井住友フィナンシャルG	1.7
三菱商事	1.6
伊藤忠	1.5
信越化学	1.4
組入銘柄数	2,108銘柄 (先物含む)

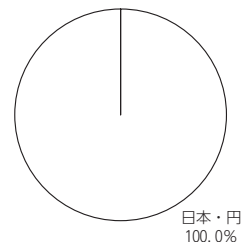
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

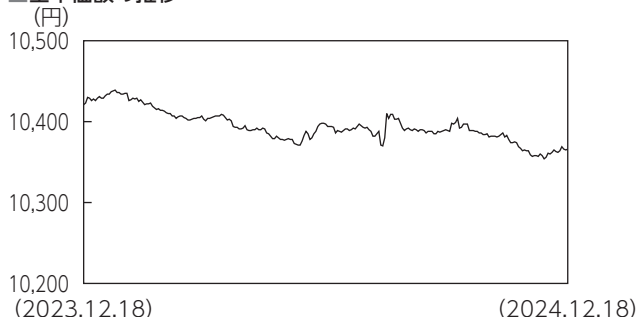
(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

◆ダイワ短期日本債券インデックスマザーファンド（作成対象期間 2023年12月19日～2024年12月18日）

■基準価額の推移



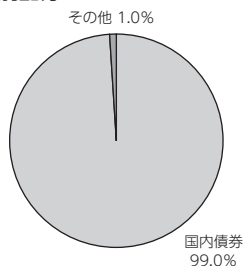
■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		-円
有価証券取引税		-
その他費用		-
合	計	-

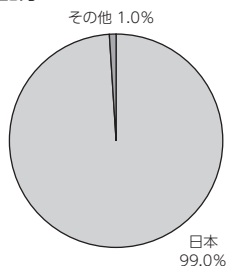
■組入上位銘柄

銘柄名	比率
342 10年国債 0.1% 2026/3/20	13.1%
152 5年国債 0.1% 2027/3/20	11.7
153 5年国債 0.005% 2027/6/20	11.5
149 5年国債 0.005% 2026/9/20	10.8
155 5年国債 0.3% 2027/12/20	10.2
150 5年国債 0.005% 2026/12/20	9.6
463 2年国債 0.4% 2026/8/1	7.7
154 5年国債 0.1% 2027/9/20	7.4
343 10年国債 0.1% 2026/6/20	6.5
148 5年国債 0.005% 2026/6/20	5.4
組入銘柄数	13銘柄

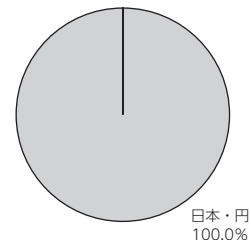
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

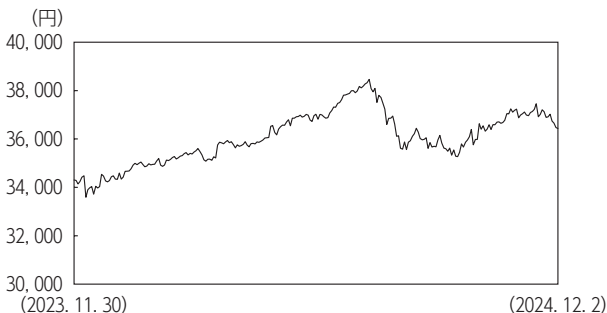
(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

◆外国債券インデックスマザーファンド（作成対象期間 2023年12月1日～2024年12月2日）

■基準価額の推移



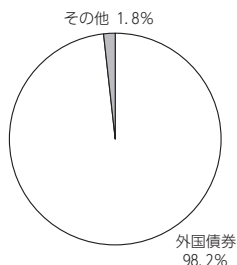
■1万口当りの費用の明細

項目	
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	5 (5)
(その他)	(0)
合計	5

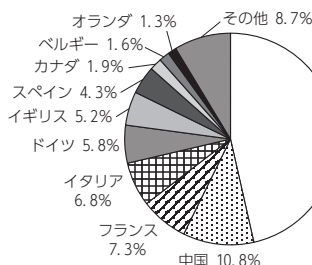
■組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
CHINA GOVERNMENT BOND 1.85% 2027/5/15	オフショア・人民元	0.5%
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 3.875% 2033/8/15	アメリカ・ドル	0.5
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 3.875% 2034/8/15	アメリカ・ドル	0.5
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 4.5% 2033/11/15	アメリカ・ドル	0.5
CHINA GOVERNMENT BOND 2.05% 2029/4/15	オフショア・人民元	0.5
United States Treasury Note/Bond 1.125% 2031/2/15	アメリカ・ドル	0.4
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 2.75% 2032/8/15	アメリカ・ドル	0.4
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 4.375% 2034/5/15	アメリカ・ドル	0.4
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.25% 2031/8/15	アメリカ・ドル	0.4
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 2.875% 2032/5/15	アメリカ・ドル	0.4
組入銘柄数	1,025銘柄	

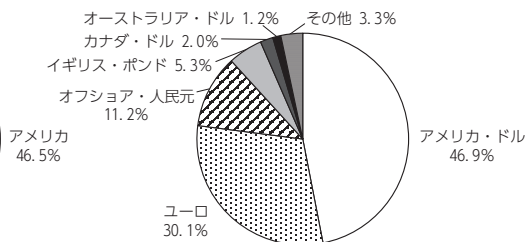
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

*組入全銘柄に関する詳細な情報については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management